

# JA みんなのぶ



峰千加（ほうせんか）総会・講習会、2月7日、JA三階会議室

■発行日/平成31年3月1日/No.1403号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

**J A 女性部大豆サークルが  
料理講習会を開催**



藤井さんがレシピを説明

J Aみねのぶ女性部（吉村俊子部長）では、農閑期を利用してサークル活動を行つていて、大豆加工サークルが1月30日に峰延福祉会館で料理講習会を開催しました。乳和食の料理講習で講師は峰樺三区の藤井悦子さん、女性部員11名が参加しました。

この日は女性部の今年初めて活動日で、集まつた皆さんには新年の挨拶と久しぶりに顔を合わせて会話が弾んでいました。



手際良く材料の準備

藤井講師から作業手順の説明を受け、最初に鍋に牛乳を満たしレモンを入れ沸騰させ、乳清とチーズを作ります。続けて長ネギや生姜、白菜、南瓜を切り分けて、片方では麺つゆの鍋に挽肉を入れて火をかけて下ごしらえが始まり、

今回の料理は「さばのミルクみそ煮」「鶏の牛乳レモンつみれ鍋」の他2品の全4品。乳和食は美味しく減塩できることや牛乳で魚を煮ると魚の臭みが取れ、身がふつくらと出来上がり、近年注目を集めています。

室内は美味しい出汁の匂いでいっぱいになり食欲をそそります。

鍋の前で「出汁がいいね」「チーズがほんのりレモンの香りがしていいね」等とお互いに味見をして、現役の主婦の皆さんには手際よく作業を進めていました。

**第1回（2月定例）理事会開催**

2月22日開催の第1回（2月定期）理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 平成30年度事業決算の結果および剰余金処分案について
2. 地区別懇談会の開催について
3. 平成31年度の理事に対する資金貸付方針について
4. 諸規程の一部改正について
5. 持分の減口について

おくやみ申し上げます

宮越哲子さん (89歳) 2月1日

岩見沢市大願町420

**勤儉譲はかなえの足**  
**処世の術は勤儉譲・**

翁のことばに、世間一般に貧富・苦楽といつて騒いでいるが、世の中は大海のようなものだから、

波があるのはしかたがない。ただ、水を泳ぐ術が上手か下手かの相違だ。船を使つて便利な水も、溺れによつて風に順風があり逆風があながら、現役の主婦の皆さんには手際よく作業を進めていました。

室内は美味しい出汁の匂いでいっぱいになり食欲をそそります。

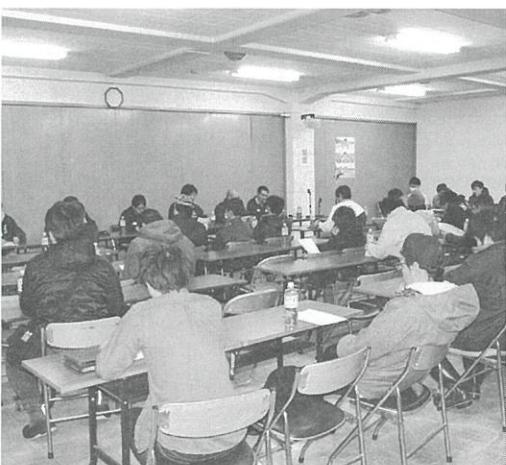
勤とは、衣食住になるべき物品を勤めて産出すことをいう。儉とは、産出した物品をむやみに費やさないことをいう。譲とは、衣食住の三つを他に及ぼすことを行う。この譲には、いろいろある。今年の物を来年のために蓄えるのも譲だ。それから子孫に譲るのと、親戚友人に譲るのと、郷里に譲るのと、国家に譲るのとがある。その身その身の分限によつて、努めて行うべきだ。たとい一季半季の雇い人でも、今年の物を来年に譲るので、子孫に譲るのとの譲りは、必ず努めるがよい。この勤儉譲の三つは、かなえの三本足のようなもので、一つでも欠けてはならない。必ず兼ね行わねばならない。



機械でミンチにした大豆を樽に入れます



塩をふり昆布を入れ出来上がりが楽しみです

2月18日、JA三階会議室にて、  
青年部意見交換会が開催されました。

テーマ毎のグループに分かれ活発な意見交換

**J A女性部大豆サークルが味噌作り**

2月12日、JA女性部大豆サークルの皆さんのが、峰延福祉会館の厨房を借りて、毎年2月恒例の味噌作りを行いました。同サークルの味噌作りは約20年続いていて、地元産大豆を使い1年分の自家用の味噌を手作りしています。

この日に参加したのは女性部員と峰延地域に居住している方を合わせて12名、今年も「気ままな主婦の会」の前川和子（峰樺一区）さんと藤井悦子さん（峰樺三区）を招いて皆で仕込みを行ないました。

市販の味噌と違い保存料は一切使っていない、安心・安全でさらにお客様の愛情もたくさん入った味噌は、参加者が自宅に持ち帰つて保管し熟成され、今年の10月中旬過ぎには食卓に上がるそうです。

数人ずつに分かれて作業分担し、麹と塩を混ぜ込み、更に大豆を混ぜ込んで専用の機械でミンチ状にして熟成させる樽に投入。また、旨味を出す昆布や塩も入れてアルコールで消毒し、樽を密閉するまでを手際良く進められ、各自の樽がどんどん出来上がっていきました。

## 平成30年度期末監事監査終る

当JAの平成30年度期末の監事監査が2月14日から21日までの日程で、浅香代表監事、高田監事、佐々木員外監事により精力的に執行されました。監査の対象は平成30年度事業全般の業務執行結果及び事務処理結果の他、決算結果による財務諸表の適正等について検証・確認が行われました。最終日の21日には常勤理事の他に幹部職員に対して監査講評が行われました。

今年のテーマについては、「これまでってウチだけ!?農作業のアレコレ」、「今後の青年部活動のあり方について」、「農協への意見・要望」の3つのテーマについて意見交換を行い、どのテーマにおいても活発に意見や情報が交流され活発な意見交換会になりました。この意見交換会の結果を踏まえ、これからの中農や青年部活動に活かし活動します。

## 青年部意見交換会開催される

2月18日、JA三階会議室にて、青年部意見交換会が開催されました。

昨年に引き続き今年もJA職員を交えて3つのグループに分かれテーマに沿い、意見交換を行いました。



峰千加(ほうせんか)会員の皆さん

**峰千加(ほうせんか)**  
総会・講習会開催される

2月7日、JA三階会議室にて、女性活動組織である峰千加(ほうせんか)の総会が開催されました。

荒井会長の開会挨拶で始まり、平成30年度事業報告並びに収支決算報告、平成31年度事業計画案並びに収支予算案が原案通り承認され、今年度の活動方針が決まり、今後、会員を募り具体的な活動内容が決められます。

また、この日は総会に先だつて空知農業改良普及センターの千田普及員より「加工用トマト栽培試

験結果と野菜の育苗について講習があり、参加者からの質問等も上がり、活発な講習会となりました。

**30米穀年度の北海道米  
道内食率87%**  
**7年連続目標の85%上回る**

道農政部の発表によると、平成30米穀年度（平成29年11月～平成30年10月）における北海道米の道内食率（道内の米消費量に占める北海道米の割合）が前年度より1ポイント上がり87%となつたと発表しました。北海道が目標（米チエン）としている85%は7年連続で達成しています。

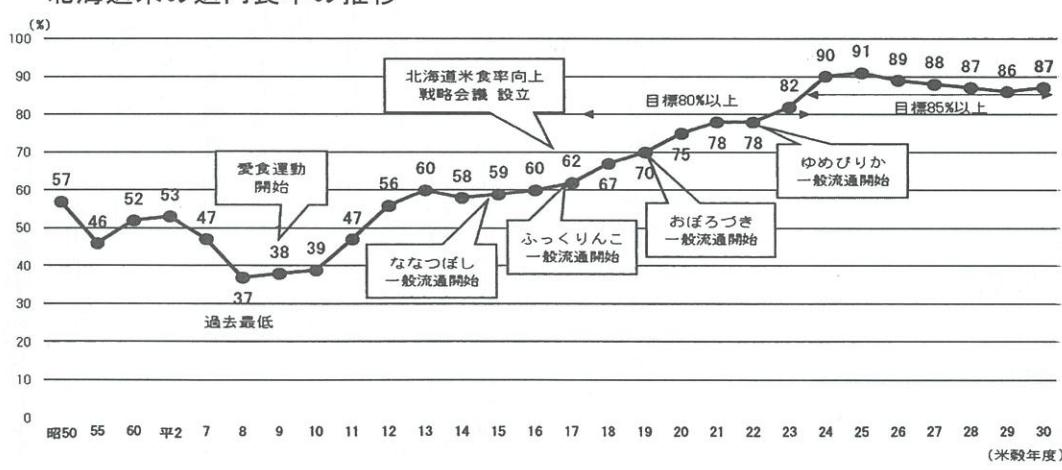
道内総人口及び一人当たり年間米消費量は、近年は一貫して減少傾向にあり30米穀年度における道内の米消費量は前年から1・7%減少しています。

道内における道産米の消費は、良食味米生産や地産地消の推進など、生産から流通・販売までの関係機関・団体が連携して取組み堅調に推移しています。

平成30米穀年度は主に平成29年産米の消費期間で、道農政部によると道内消費量は前年度比1・7%減の30万5195tで、うち府県産米が10・1%減の3万832t

4t、道産米は0・2%減の26万6871tでした。

道内食率は平成25米穀年度が91%で過去最高を記録し、翌年度以降は低下傾向が続いています。



**農協地区別懇談会を開催します**  
3月11日・13日～15日4日間7会場

本年度の地区別懇談会は3月11日及び13日から15日の日程で開催します。多数のご出席をお待ちしています。この懇談会は例年同様に午前と午後に開催地区を分けて全7会場で開催しますので、最寄の会場へご出席下さいますようお願い致します。多数のご出席をお待ちしています。

農協地区別懇談会開催日程		
日時	会場	参考範囲
3月11日(月)	9時～ 上美唄中央会館	上美唄
	14時～ 北村東地区公民館	中小屋
3月13日(水)	9時～ 光中ふれあいセンター	光珠内南 光珠内中央
	14時～ 光北福祉会館	光珠内北
3月14日(木)	9時～ 豊草営農改善センター	豊草
	14時～ 岩峰流動化センター	岩峰・大願
3月15日(金)	14時～ J A 3階会議室	峰延・峰樺 岩岡・三笠

# J A 配置薬推進員交代のお知らせ

日頃よりJA配置薬をご利用いただきありがとうございます。

J A 配置薬 峰延地区を担当しておりました、三浦眞希子推進員が3月末をもちまして退職いたします。

在職期間中、皆様から寄せられた暖かいご支援並びにご愛顧に対しまして厚く御礼申し上げます。

なお、4月より新しく堀美鈴が、当地区を担当させていただくことになりました。

今後も、なお一層のご要望に応えるよう努力してまいりますので、更なるご支援・ご愛顧とJA配置薬のご利用をよろしくお願ひ申し上げます。

ほり  
**堀**  
み  
すず  
**美 鈴**

携帯 090-9754-1591  
奈井江町在住

※お薬の不足の場合は上記推進員までご連絡ください。

## J A 北海道厚生連 JA配置薬から新商品のお知らせ



森林限界の遙か上、海拔4,100mにそびえ立つ樹高21mの樹木！

### 紅豆杉エキス粒（錠剤）

〈6粒×30包入り〉 27,500円（税別）

紅豆杉は地球最古の最も貴重な仙樹を原料としています。世界で最も磁場の良い所として有名な秘境地、中国の雲南省に郡生する雲南紅豆杉5g相当のエキスを配合。1日1/2~9包を目安に水などでお召し上がり下さい。

#### 【こんな方にお勧め】

- 紅豆杉をしっかりと摂りたい方
- 仕事が忙しくてお茶を煎じる時間が無い方



健やかで活動的な毎日へ！

### ノーリツアミノ酸

〈2.5g×30袋入り〉 4,800円（税別）

体に必要な3種類の「LGAアミノ酸」（ロイシン、グルタミン酸、アルギニン）をバランスよく配合し、生活の質向上をサポートします。1日1~2袋を目安に、そのまま又は水かお湯でお召し上がり下さい。

#### 【こんな方にお勧め】

- 動きが鈍くなった ●近頃やる気がない
- 段差のない所でつまずきやすい
- 食べる量が減った



軽やか・快適・生活サポート！

### アミノタイトゴールド

〈2.5g×30包〉 3,800円（税別）

アミノタイトゴールドには、臨床試験結果により「骨密度と骨質」に作用する物質として「物資特許」を取得したプロテタイトが配合されています。骨、筋肉、関節の健康を守ります。1日1包を目安に水などでお召し上がり下さい。飲みやすいココア味です。

#### 【こんな方にお勧め】

- 日々の健康維持
- いつまでも動ける体を目指す方
- スポーツをする方

第29回JA北海道大会(平成30年11月13日) ~パネルディスカッション~

## 「多様化する組合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」

J A北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介します。

元々は新聞社で農林水産業の取材に携わり、今は東日本大震災、特に福島原発事故で被災した地域の取材を行っています。取材を通じ、協同組合の意義について考えさせられる機会も度々あります。



行友 弥氏

(株)農林中金総合研究所  
顧問 特任研究員

トをパネリストの皆さんから頂き、新規な取り組みを開始していると聞いて、JAの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。あわせて、今後の実践のヒントを持ち帰つてもらえばありがたい。



宮入 隆氏

北海学園大学 教授

テーマは、議案第2号に係る協同組合の価値づくりです。難しいテーマですが、前回大会と2回の実践フォーラムを通じ、各地で様々な取り組みを開始していると思います。これまでを総括し、新たなステップに繋げるための段階として、JAの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。



小野寺 俊幸氏

J A北海道中央会副会長  
JAところ 会長理事

全道JAの代表であり、一生産者として、組合員のニーズにどう応えていくか。最も難しい問題も難しい問題について、考えていく。パネリストの皆さんの中でも、一つでもヒントを得たいと思います。



### 【事例報告】

- ① 生協における組合員との関係強化
- ② 持続可能な開発目標（SDGs）と協同組合間連携

若い人たちに、どうやってJAに結集してもらうか。JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までどおりJAも生協も、組合員活動をどう支えたい。JAの方々が、農業者にとつてなくしていかない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあつた参加の仕方を磨いていきたいです。

JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までどおりJAも生協も、組合員活動をどう支えたい。JAの方々が、農業者にとつてなくしていかない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあつた参加の仕方を磨いていきたいです。

JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までどおりJAも生協も、組合員活動をどう支えたい。JAの方々が、農業者にとつてなくしていかない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあつた参加の仕方を磨いていきたいです。

JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までどおりJAも生協も、組合員活動をどう支えたい。JAの方々が、農業者にとつてなくしていかない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあつた参加の仕方を磨いていきたいです。

プが大きく出てきており、そこに農協運動の難しさがあります。

地震で被災したJAの施設に、若い人が結集して、被災したコンテナや馬鈴薯などを、自分たちの力で片づけ、1週間かかる作業が2日間で終わった。

若い人たちが農協に結集すると、すごい力となつて働く。若い担い手の力の素晴らしさ。普段は、口にしなくとも、何かあればJAに結集して、仲間や友を助ける自分のJAという想いに感銘を受けた。

宮入教授組合員との関係強化と言うと、いつもは自然に存在しているが、何かあつたときにはJAに入つていて良かった、組合員で良かったと感じることも大きいのでは。福島の取材での

お話をうながす。行友顧問 住民が長期間避難した地域では農業

まが空白状態に館な  
近年などはががが  
て就農す者が戻最初飯に  
てきてが移り住し最お村り  
もて寄り若者です。ま  
います。

具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取つて形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。青竹常務 生協の職員にとつては、生活や子育てへの組合員の想いを聞き取る力が大変重要です。

宅配担当職員は、週に1度、組合員と顔を合わせ、いろんな質問や悩みを聞く、生協をやめると言われる場合もありますが、その背景を聞き取ることが大事。また、近畿の生協では、職員研修で、JAにお願いをして、一定の期間畑や牛舎・鶏舎など、生産現場を体験させてもらっています。

本日の大会議案で、若いJA職員に組合員の会議への参加を位置づけています。現場・組合

員の所に行くことが重要であり、その中で、聞き取る力や相手の想いを受け入れる力が育ちます。

す。このことが、人と人を作る協同組合の大きな特徴だと思います。

宮入教授 聞き取つた内容を情報交換する場所はあるのでしょうか。

青竹常務 すぐに対応できるものは対応し、重要な商品クレームなどは、組織対応に引き上げることもあります。

クレームやお問い合わせ・要望を登録し、組織全体あるいは役員会・理事会で状況をつかむためのデータベース作りを進めている生協も増えています。

関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないかでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと

思います。  
『組合員との関係強化』について  
組合員の自主性をどう協同活動に活かすか。J  
Aでも、組合員の想いを、上手く活かして事業  
にしていくことが、ニーズの多様化の中で求め  
られます。

られると思う  
生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか

多様な組合員二  
ーズという意味で、北海道の組合員数の80%に



及ぶ准組合員との関係づくりをどうするか。准組合員との関係づくりについて教えて頂きたい。

小野吉富会長 前回大会で 5550万人サボリ  
ターブルクリを掲げ、准組合員をはじめ、消費者  
の皆さんと、食と農で繋がることを目指して活  
動をしています。

農業者もある意味で消費者だと考えますと、多様な消費者があり、生協からも、色々と学んでいかないといけませんし、これからは、生協を含めて色々な方々と手を結び、横の連携を広げて、農業の発展を目指していきたいです。

くして農業だけの目線で見るのではなく、多様な人たちの意見を農協が取り入れられるかに尽きると思います。北海道の世帯数の60%以上が、生協に加入しています。生協における組合活動の素晴らしさ

を、我々も認識し、組合員との関係強化に向けて、目線を移していくかないと考へて、

い  
ます  
**宮入教授** 準組合員調査を通じて、準組合員はJA事業利用に対し正組合員に近い考え方を持つていると感じています。自ら准組合員になつている方々の声を、聞き取つていくことも大事だと思ひます。

体験講座が発展して正組合員の農業を手伝う援農ボランティアの取り組みとなり、正組合員と准組合員の関係を作る契機にもなっています。北海道は、准組合員の割合が高く、農協がな

いと地域が持たない部分もあると聞きます。地域の様々な課題に対応するうえでも、正と准の垣根を低くして、協力しあう関係作りが必要だ

**宮入教授** JA事業でライフライン・インフラを維持している地域が数多く存在するのも事実で、あつてはならないが、准組合員の利用が規制されると、JA事業も影響を受けます。正と

准の支え合いを目に見える形で作っていく必要があると思います。

# JAグループ通信

No.32

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。  
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、  
組合員の皆様に定期的にお伝えします。  
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



高校卒業後、一人暮らしを始める生徒が多く、施設から卒立つた後も栄養バランスを考えた食生活を送つてもらい、健康に過ごしてほしいという趣旨で実施しています。高校生10名が参加し、身体に必要な栄養素や食材の消費・賞味期限など食の知識について学んだ後は、調理実習に挑戦。グループに分かれて役割分担をし、協力して楽しく料理する姿が見られました。

J A グループ北海道は、児童養護施設からの卒業を控えた高校生を対象とした調理実習体験「おとなの教育」を札幌市内で開催しました。

この取り組みは、自立支援活動として、JAグループ北海道と興正ども家庭支援センターが共催しており、今回で6回目の開催となります。

## JA北海道中央会



## JA北海道信連



J A とホクレンは労働力確保が深刻になりつつある生産現場と、障がい者の社会参加を希求する福祉側とのマッチングを目指す農福連携研修会を昨年12月、札幌市内のホクレンビルで開きました。大学研究者や実際に障がい者を雇用している生産者・JAの他、北海道庁職員ら70人余りが参加。グループディスカッションでは農福連携の実現に向けた課題と、今後の可能性などについて積極的な意見交換が行われました。

## ホクレン

HOKUREN  
Seeds  
PROJECT



JAバンク北海道は、地域貢献活動の一環として、野球観戦を通じて子供達に夢や希望を持つてもらうことを目的に、「ファイターズ・ドリームシート」に協賛し、今シーズンは福祉団体を通じて1、200名余りの子供達を招待しました。

「初めて野球の試合を見て楽しかったです。」「声がかかるほど応援しました。」等の感想をいただき、多くの子供達に楽しんでいただきました。



## JA共済連北海道



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しております、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

## JA北海道厚生連



J A 共済では、「こども共済」資料請求キャンペーンを実施しております。Webで「こども共済」の資料をご請求いただいた方に、「JA共済オリジナルアンパンマンお食事エプロン」をプレゼントしております。キャンペーンは平成31年3月20日(水)までで、先着60,000名様となっております。

この機会にJA共済のホームページにアクセスいただけますようお待ちしております!

